

100歳のお誕生日おめでとうございます

これからもお元気でお過ごしください

後藤スマ子さんが、めでたく100歳を迎えられました。

スマ子さんは、9人兄弟の長子として、下野(大神野)で生まれました。17歳で学校を中退し、親戚のいる朝鮮(京城)に渡り、2年ほど花嫁修業をしました。

20歳で辰男さん(18年前に他界)と結婚。牛馬を養い、米や野菜をつくるなど農業をしながら、5人の子どもをもうけ、議員や教育長を長く務められた辰男さんを支えてきました。

現在では、孫10人、ひ孫17人に恵まれ、65歳から始めた俳句を毎日詠み、新聞や本を読んだりナンプレや間違い探しを解くことが日課となっています。

健康の秘訣は、好き嫌いをせず何でも食べること。昔は馬に乗って山仕事(草刈り)に行ったり、88歳まで刈払い機を使うなど、体を使うことが長生きの秘訣のようで、ご家族曰く、自由奔放で周りに気を遣わず生きてきたこともその要因では?とのこと。

長男の俊彦さんは「私たち家族の敬愛の対象。いつまでも長生きしてほしい」と話しました。

「百寿を越へたる安堵 ふじ匂う」



きらり高千穂人

※写真は「ボートレース津」提供

ボートレースを小学生の時にテレビで見たことで、高校生の時に進路を考える際、自分の身体に合った職業として思い出し、実際、父に競艇場に連れて行ってもらったときに見たモンキーターの姿勢やモーター音の格好良さに迫力を感じたことが目指すきっかけになったようです。

渡邊雄斗さん(大平)が、5月27〜30日に三重県の「ボートレース津」で開催されたサンケイスポーツ杯でプロデビューをしました。雄斗さんは、高千穂高校を卒業後、ボートレーサー養成所(福岡県柳川市)の第134期生として競争率約26倍の難関を合格し入学。超過酷と言われる1年間の養成所生活を終え、3月に卒業しました。



「応援よろしくお願いします」

渡邊雄斗さんが競艇選手としてデビュー

また、3歳から始めた空手で体力が身につく、あいさつなどの礼儀作法を学べたこと、中学から始めた水泳でさらなる体力や筋力の増加によつて瞬発力がついたことなど、これらを高校卒業まで続けたことがレーサーの道にもつながったそうです。

デビュー戦(6レース)を終えた雄斗さんは「他のレーサーと比べ技量がまだまだ。6月のレースに向け目標を持って頑張りたい」と感想と意気込みを述べ、「将来は、SG(最上階級)に行き活躍できる選手になること」と目標を語りました。



サンケイスポーツ杯にて



広報高千穂

2024.6 No.693
www.town-takachino.jp

食料・農業・農村基本法 改正 成立
「高千穂」の広報誌は毎月20日発行



Soko, Kotanuki
Orie Okue

UD FONT



編集・発行/高千穂町企画観光課広報係
〒882-1192 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井13番地
TEL 0982-73-1212 FAX 0982-73-1234